



淑女のまなざし



私と鉄道車両の距離、接近中！

【日本車輛製造株式会社 Y.S】

♡ 鉄道と私

学生時代に友達との楽しいおしゃべりの時間を提供してくれた青春の思い出であったり、一方で目的地へ連れて行ってくれる移動手段であったり、就職活動で数年ぶりに新幹線に乗ってその速さにびっくりしたり・・・そんな程度だった鉄道車両と私の大きな距離は、この会社に入社、つまり鉄道車両業界に入ったことで大きく変わることになりました。

私は入社してから6年以上資材(購買)の仕事をしているためか、ひとたび鉄道に乗り込むと、この車両はどこの車両メーカー製なのかと銘板を探してみたり、この部品はどこのメーカー製品なのだろうか、このパネルの素材は何でできているのだろうか、と「部品単位」で見たりするくらい鉄道車両とは近い距離に変わってきました。

また、入社して初めて大きく関わった(と言っても私自身が思っているだけで全体から見ればほんの一部)米国案件の車両が完成し、出車するところを見に行きました。この案件では私にとって全てが「初めて」のことばかりで、とにかく目の前の仕事を終わらせることで精一杯だったこともあり、工場から出車する瞬間を目の当たりにしたとき、ようやくここまでできたという嬉しさと寂しさが入り混じった複雑な気持ちになってしまうほど、私の中で鉄道車両は親密なものになりました。

最近では国内・海外案件を問わず鉄道車両に乗ったとき、製作時に自身が直面したトラブルを思い出しながら、少しずつですが成長しているなと感じられるようになりました。これからはますます鉄道車両との距離を縮めていければと思います。

♡ 仕事と私

米国イリノイ州ロシエルにある Nippon Sharyo Manufacturing, LLC に、2015年1月より駐在して約2年経とうとしています。ここでも資材(購買)業務に携わっていますが、仕事のプロセスや担当する範囲、使用するシステムも日本とは大きく異なり、慣れるまで時間がかかりました。更に取り先とのやり取りも、様々な面で一筋縄ではいかずピンチのときはたくさんありますが、上司や同僚に支えてもらいながら一つずつ問題を解決し、スキルアップに日々奮闘中です。



また、米国では日本と少し異なったやりがいを感じています。現地のアメリカ人の同僚の中にも「生まれて一度も鉄道に乗ったことがない」という人がいるほど、まさに「車社会」の米国において、自社製の車両に乗り込んだ際、満席になるほどの乗客が会話や移動を楽しんでいるところを見ると嬉しくなります。

この米国駐在業務という機会を与えてくれた会社に感謝しながら、ここでしかできないことを大切にして日々邁進していきたいと思っています。